

令和7年度 学校評価

1. 本園の教育目標

健康で安全な生活ができる子どもに教育する。

自主的で豊かな創造性を養うために、様々な試みを取り入れ、社会の変化に対応した新しい時代の教育をめざす。

多様な教育活動を通じて集団生活に適応できるよう指導する。

教育活動には幼稚園と家庭が一体となってあたる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」に基づき、子ども一人ひとりの特性を踏まえて、保育活動を展開する。保護者のニーズ、本園の担う役割を知り、教育目標達成に向け取り組みを進める。また感染症予防や事故防止等、一人ひとりの子どもが安全意識を高めながら園生活を送ることができるようにする。

3. 評価項目とその成果(達成状況 A=達成できた、B=概ねできた、C=まだまだ不十分)

年度末に子どもの様子、幼稚園の教育、家庭での様子という観点から、保護者アンケートを実施する。そのことにより園や子どもに対する保護者の思いや考えを明確にする。

その後、さらに一人ひとりの教職員が保護者の意見やアンケート結果を踏まえ、教育目標の達成状況の把握と整理を行い、自己評価を行う。

※達成状況の判断は、保護者アンケート、保護者の意見及び幼稚園内教員評価を総合し判断する。

①一人一人の成長を支援・援助するため、全教職員が共通理解を持ち関わる

	評価項目	達成状況
ア	全教職員が園児一人ひとりについて、幼稚園生活の把握、子どもの特性を知り、保育に生かすことができた。	A
イ	日常的に支援や援助の方法を確認することができた(ミーティングを活用)。	B
ウ	特別支援リーダーを配置し定期的に子どもの状況について情報交換や保護者との相談体制をとることができた。	B

②子どもの健やかな成長のための適切な運営

	評価項目	達成状況
ア	人権尊重や不適切保育防止に関する研修を再三受講できる体制を確立し、その学びを全教職員が共有し、振り返りや改善実施を行ってきた。	A
イ	不適切な保育が行われていないかの自己チェックリストを再三活用し、教員相互に保育を振りかえる場を設定し、常に点検と改善を実施してきた。	A
ウ	「不適切な保育」の事例研究の実施、その背景や要因を探り、「不適切な保育が行われないようなシステムを構築した。	A

③身体を進んで動かし、楽しんで健康な心と体づくりに努める

	評価項目	達成状況
ア	専門講師による体操、リトミック、ダンス指導を取り入れることにより、一人ひとりの体力の向上を図る	B
イ	園庭遊びの他、雨天時の遊びの工夫(お遊戯室の活用)をすることができた。	A
ウ	運動遊びを楽しんで積極的に取り組めた	A
エ	運動遊びの後等の手洗い・消毒等、感染症予防の習慣も身についてきた。	A

④専門講師の招聘と特色ある活動(多様な教育活動)

	評価項目	達成状況
ア	多様な活動を実践し、体力や体幹、表現力、コミュニケーション力、協調性や社会性、異文化理解等につながった。	B
イ	新しい時代の教育の一環として「ダンス活動」を実践し、体幹や表現力、コミュニケーション力の育成につながった。	B
ウ	参観日を設定する等、保護者に特色ある活動の理解を深めることができた	A
エ	活動の積み重ねにより達成感・成就感が味わえる場の設定ができた。	A

⑤文字にふれる機会を増やし、表現力を伸ばす

	評価項目	達成状況
ア	絵本や紙芝居などの読み聞かせの機会を増やし、言葉集めなど語彙を増やす。そのために、園児が使用する文字練習等の教材を厳選し、新刊絵本等もできるだけ購入量を増やす。	A
イ	文字を書く練習は一人ひとりの習熟に合わせてきめ細やかに指導する	A

⑥規則正しい生活習慣を身につける

	評価項目	達成状況
ア	日頃から幼稚園や学級内でも、また、幼稚園来客者に対しても、気持ちの良いあいさつができるようする。	A
イ	日々の幼稚園生活が、規則正しいリズムで過ごせるようメリハリをつけて場面の切り替えができるように保育内容を工夫する。(設定保育)	B
ウ	朝の登園時刻等が不規則な家庭と、啓発と個別対応で改善に取り組む。	B
エ	規則正しい生活習慣について、広報誌を通じて啓発活動を行う。	A

⑦行事等を通して、協調性や自立心、表現力などを養う

	評価項目	達成状況
ア	それぞれの行事の中で子どもが主役に考えて実施した	A
イ	子どもの満足感・充実感のある活動になるよう工夫し、子どもが活躍できる場を意図的に設定できた	A
ウ	年間を通じて子どもの心身の発達成長を観点に行事の精選と改善を行う	B
エ	認定こども園であることから保護者のお手伝いの負担軽減を図る	B

⑧園での子どもの様子を、保護者と共有する

	評価項目	達成状況
ア	毎月のしおり、学年だより、ホームページを通して活動内容や保育・教育の様子をわかりやすく知らせてきた。	B
イ	保護者への情報発信として「子育ての WA！」を毎月作成した。内容は、「子育てのあれやこれや」を中心に子どもとの触れ合いや絵本コーナー、食育に関連したものを提供してきた。	B
ウ	ホームページは、一日一日の子どもの様子がわかるように「今日の一コマコーナー」を新設し、ほぼ毎日掲載してきた。	A
エ	保護者ページにはランダムに写真を掲載してきた。	A
オ	月のしおりは読みやすいよう(文字の大きさ・記事内容等)工夫してきた。	B

⑨安全な幼稚園生活

	評価項目	達成状況
ア	バスの送迎は安全に配慮されている	A
イ	感染症対策が徹底されている、また、その情報が保護者に周知されている	B
ウ	安全点検などを実施し、子どもを取り巻く環境の整備ができています	A
エ	熱中症対策など水分補給、エアコン等適切にとられている	A
オ	安全教育の一環として「自転車安全運転教室」を開催した(年長組のみ)	A

4. 総合評価

*保護者アンケートや保護者意見、各自の取組の振り返りを踏まえて

令和7年度を終えるにあたり、教職員一人ひとりが記した振り返りを基に、内容を整理・統合し、園全体の学びとして共有することを目的として作成した。立場や担当は異なるが、多くの意見に共通する視点や、実際の保育現場で生じた具体的な出来事を丁寧に振り返ることで、次年度のより良い園運営・保育実践につなげていきたい。

【1. 1年間の全体的な総括】

本年度は、新入園児の受け入れ、途中入園、職員配置の変化などが重なり、年度当初は落ち着かないスタートとなった。そのような状況の中でも、日々の保育を丁寧に積み重ねることで、子どもたち一人ひとりの成長を実感できる一年であった。多くの職員が『大変だったが、学びの多い一年だった』『何とか卒園・進級まで導くことができ、ほっとしている』と振り返っており、現場全体として大きな達成感と同時に課題意識も共有されている。

【2. 子どもたちの成長① 基本的生活習慣】

基本的生活習慣については、すべての学年で共通して『少しずつ定着が見られた』という声が多く挙げられた。着替えや身だしなみ、排泄後のスリッパを揃えること、挨拶、話を聞く姿勢など、年度初めには援助を必要としていた子どもが、自分で行おうとする姿へと変化していった様子が報告されている。例えば、着替えの際に『できない』『手伝って』と言っていた子どもが、難しい部分は援助を受けながら

も、最後までやり遂げられた達成感を味わい、自信につなげていく姿が見られた。また、排泄後のスリッパを職員が声をかけなくても並べる姿や、廊下で来客に自ら挨拶をする姿など、日々の積み重ねが行動として表れてきたと感じられる。

【3. 子どもたちの成長② 集団生活と人との関わり】

集団生活の中での育ちについても、多くの具体例が挙げられている。年度当初は、言葉が足りずに玩具の取り合いになったり、気持ちをうまく表現できずトラブルになったりする場面が多く見られた。しかし、職員がその都度仲立ちをしながら言葉を添え、繰り返し伝えていく中で、『貸して』『順番』といったやり取りが徐々にできるようになった。

また、絵本の読み聞かせを通して登場人物の気持ちを考えたり、『こんなことを言われたらどんな気持ちになるかな？』と問いかけたりする関わりが、友だちへの思いやりにつながったという声も多い。行事や当番活動を通して、自分の役割を意識し、クラス全体で協力する経験が、子どもたちの自信や達成感に結びついていった。

【4. 年度初め(4～5月)の関わりの重要性】

複数の職員が共通して挙げていたのが、年度初めの関わりの重要性である。新たな環境に不安を感じる子どもが多く、先の見通しが持てない中でスタートしたクラスも少なくなかった。生活の流れを整え、安心できる環境を作るまでに時間を要したが、この時期に丁寧に関わったことで、その後の保育が安定したと感じた職員が多い。

【5. 個別支援・配慮の難しさと学び】

支援や配慮が必要な子どもへの関わりでは、『どこまで援助するか』『いつ声をかけるか』という判断に悩む場面が多くあった。手を出しすぎること自立の機会を奪ってしまうのではないかと、一方で見守りすぎること失敗体験にならないかと迷いながら関わっていた実情が多く語られている。

担任・副担任・加配の間でこまめに相談し、その子の背景や思いを共有することで、少しずつ関わり方が整理されていったケースも多い。小さな『できた』を共に喜び合えた瞬間が、大きなやりがいにつながったという声も見られた。

【6. 保護者対応・アンケートから見たこと】

保護者対応については、『職員に相談しやすい』という評価が園の強みとして挙げられる一方、柔軟に対応してきたことで要望や要求が細かくなっていると感じる職員も多かった。登園時間、持ち物、生活習慣、食事に関する意見など、園だけでは対応しきれない内容も多く寄せられている。

特に食事や生活習慣については、園での取り組みだけでは限界があり、家庭との連携の必要性が強く感じられた。また、園のルールや決まりごとについて、その背景や意図が十分に伝わっていない場面があり、説明の仕方や伝え方の工夫が今後の課題である。

【7. 行事・運営・安全管理】

行事については、華やかさや見た目だけでなく、『日々の保育の積み重ねを見せる場』としての意味づけが必要であるという意見も挙げられた。観覧マナーに関する課題、安全面への配慮、事前周知の重要性など、具体的な改善点も共有された。

また、アレルギー対応を含む安全管理では、情報共有不足が事故につながるリスクを改めて認識する機会となった。事前共有だけでなく、当日の確認を必ず行うこと、その日に保育に関わる職員全員が『自分事』として情報を把握することの重要性が強調されている。

【8. 職員体制と次年度への展望】

職員自身の振り返りでは、業務量や責任の重さにプレッシャーを感じたという声がある一方で、支え合いながら乗り越えられたことへの感謝も多く記されていた。世代や立場の違いによる価値観の差、暗黙の了解が通じにくくなっている現状を踏まえ、園としての共通スタンダードを整理する必要性が示されている。

本年度の学びを次年度につなげるため、年度初めの関わり方の共有、保護者対応の言葉の統一、安全管理の仕組み化、職員が無理を抱え込まない体制づくりを意識しながら、より安心で信頼される園づくりを目指していきたい。

5. 学校関係者評価

以上の学校評価を受け、学校関係者評価委員会を開催した。以下は、その要約である。

【幼稚園アンケート結果集計を受けて】

幼稚園アンケート(単純集計)

1. 園の強みが非常に明確に表れたアンケート

以下のような項目は 全員が肯定的 という非常に珍しいレベルの結果。
「友だちと一緒に遊ぶことが好きだ」、「行事は子どもの生活が豊かになる」、「日頃の保育は子どもの心に寄り添っている」、
については、全回答者が「思う・まあまあ思う」を合わせ、100%肯定しています。これは、園の教育観・保育観が子どもにも保護者にも確実に届いているという強力な証拠です。
特に「心に寄り添っている」が 100%というのは、保育者の関わりが極めて高く評価されていることを示します。

2. 肯定率 TOP5 の特徴

TOP5 がすべて 100%というのは、全国的に見てもかなり高い水準です。
これらの項目は共通して、「子どもの安心感」、「園生活の楽しさ」、「保育者の関わり」「活動の質」といった 園の核となる部分に関するものです。つまり、園の理念と実践がしっかり一致しているということが読み取れます。

NO	質問項目	思う	まあまあ思う	あまり思わない	全然思わない
1	幼稚園へ行くのが楽しそうである	61	29	1	0
2	気持ちのよい挨拶ができるようになった	46	34	11	0
3	幼稚園での活動を通して、心身の成長を感じる	75	16	1	0
4	友だちと一緒に遊ぶことが好きだ	77	14	0	0
5	いろいろな行事を楽しんでいる	75	15	0	0
6	子どもとの会話や関わりがよくできている	57	34	0	0
7	お家でお手伝いをさせるようにしている	30	47	13	1
8	早寝・早起き、朝ごはん等生活習慣がついている	54	29	7	1
9	子どもの食べ物の好き嫌いはほとんどない	24	25	30	12
10	登降園時刻等。園のルールを守ることができている	59	26	4	2
11	就労・その他により、預かり保育を利用したい	47	27	12	4
12	園の教育内容は、子どもにとって適切である	60	30	1	0
13	英語、体操、リトミック、ダンス活動は楽しんでいる	69	22	0	0
14	行事は子どもの生活が豊かになるものになっている	77	14	0	0
15	年間行事は季節折々バランスよく計画・実施されている	74	16	1	0
16	園のしおりやお手紙は、読みやすい	60	27	4	0
17	HPを通じて「今日の一コマ」等、子ども様子をわかりやすく伝えている	56	31	4	0
18	学年だよりは子どもたちの様子等がよくわかる	68	20	3	0
19	欠席等の連絡で登降園システムは利用しやすい	75	16	0	0
20	Brain園児アプリ「お知らせ」は必ず読んでいます	61	20	9	0
21	「子育てのWA」は子育てのヒントになる	41	38	11	1
22	子どもの安全に配慮した環境づくりができている。	59	31	0	1
23	バスの送迎は安全に配慮している。(バスの方のみ)	33	7	0	0
24	子どものことで先生に気軽に相談できる	74	16	1	0
25	子ども発達段階に合わせた指導をしている	74	17	0	0
26	日頃の保育は言動等子どもの心に寄り添っている	77	14	0	0

3. 課題項目の本質的な読み解き

NO.9「食べ物の好き嫌いはほとんどない」(肯定率 54%)

これは園の問題というより、家庭の食習慣・個人差・発達段階 が大きく影響する領域と思います。

園としては、「食育の機会を増やす」、「園だよりで家庭向けのヒントを提供」、「好き嫌い克服の成功例を共有」等、家庭支援としてのアプローチが有効ではないかと考えます。

NO.7「お手伝いをさせるようにしている」(肯定率 85%)では、85%は決して低くありませんが、「家庭での生活習慣づくり」にバラつきがあることが見えます。

園としては、「年齢別のお手伝い例」「“できたらシール”等の家庭向け仕掛け」「園での生活習慣づくりとの連動」など、家庭と園の連携強化がポイント。

NO.20「アプリ『お知らせ』は必ず読んでいる」(肯定率 90%)

1割が読んでいないのは、情報伝達の最終到達率が100%ではないということです。改善策としては、「重要度の★表示」、「プッシュ通知の活用」、月1回の「重要連絡まとめ」、「タイトルの工夫(例: [重要]~)」などが考えられます。

NO.21「子育てのWAは子育てのヒントになる」(肯定率 87%)

読まれていない可能性があるため、「内容の簡潔化」、「写真・図解の活用」、「タイトルを“読みたくなる”形に」、「アプリ通知との連動」等、発信方法の改善が効果的です。

4. 保護者支援・コミュニケーションは極めて良好

特に注目すべきは、「先生に気軽に相談できる」→99%、「学年だより・HP がわかりやすい」→95%以上、という記述が示す通り、相談しやすさは園の大きな強みです。

これは園の信頼度を大きく高める要素であり、保護者満足度の根幹になっています。

5. 預かり保育ニーズの高さ(82%)

就労家庭の増加だけでなく、「多様な働き方」「家庭の事情の多様化」が背景にあると考えられます。

6. 園としての次の一手(提案)

強みをさらに伸ばす方向として、「行事・活動の質を維持しつつ、写真や動画で“見える化”」、「保育者の関わりの良さ」を園の特色として積極的に発信し、ホームページや園だよりの“読みやすさ・理解しやすさ”そのものを園の強み(ブランド)として確立するしていくことが重要です。

7. 改善ポイントへの具体策

「偏食」→家庭向けのミニコラム、食育週間の設定、

「お手伝い」→年齢別チャレンジ表の配布、

「アプリ」→重要度表示、月まとめ、通知強化、

「子育てのWA」→短く・読みやすく・実践しやすくするとよい。

8. まとめ

このアンケートは、園の教育・保育の質が非常に高く、保護者から強く信頼されていることを裏付ける内容でした。改善点はあるものの、いずれも「園の努力でさらに良くできる領域」であり、全体としては極めて良好な結果です。

9. 総評

幼稚園アンケート結果より、各質問事項に対して、多くの保護者の方が肯定的な回答している点は高く評価できる。中でも根幹となる「子どもたちの成長」「園生活の充実」「先生への信頼」に関連した質問に対して肯定的な回答が100%に近いことは、日々努力されている結果であると感じる。

情報発信分野の課題について「Brain 園児アプリ」のお知らせ機能のカテゴリ分け(重要・子育て

の WA・その他)等のハード面での改善および保護者に対してアプリ通知設定の再確認等のソフト面での改善が必要と考える。また「子育ての WA」について先生方の伝えたい想いがびっしりと詰まっていると感じる反面、文字数が多いため要点を整理し簡素化は有効であるとする。簡素化に伴い外部リンクの張り付け(QR コード)等、時代にマッチした改善もぜひ検討いただきたい。

今後もさまざまな角度(上述の 1. ～8. も参考に)から精査・考察を行い、よりよい教育活動に改善していただけることを望んでいる。

【学校評価(自己評価)を受けての意見】

自己評価の達成状況の結果について評価項目の 6 割以上で「A(達成できた)」となっており、幼稚園側の運営意識の高さに共感できる。「B(概ねできた)」評価となった項目については、今後も改善を図り『A(達成できた)』に少しでも近づけるように期待している。

以下、『4. 総合評価』について簡単に意見を述べる。

年度初めは子どもたちも緊張している様子で先生・お友達と仲良くなれるかなと、幼いながらも不安はいっぱいあるように感じる。先生方がその期間を丁寧に関わっていただいたことは実感できた。夏休み前にはたくさんのお友達ができ、毎日の幼稚園が楽しいと目を輝かせながら話してくれる。

集団生活を通じて思いやりの心を学んだことで自宅でも変化があった。我慢をする・順番を守るといった当たり前の行動が身につく、兄弟とのトラブルも少なくなったと感じる。

保護者アンケートの結果を受けて万人が納得のいく運営は不可能である。アンケート結果より、大多数の保護者が美木幼稚園の運営に肯定的(賛同)であることから少数派の意見・要望(不満)については本当に改善が必要な項目のみ精査し、対応にあたってほしいと考える。

安全管理面のアレルギー対応は子どもの命に関わることから、情報共有不足により事故の予見があったのであれば、今まで以上にリスクマネジメントを強化してほしい。また事故が発生した際の対応マニュアルの見直しや訓練(シミュレーション)も行ってもらいたい。

次年度への取り組みとして、先生方の業務量の効率化・平準化は現代社会において改善は急務である。保育者がやりがいを持って子どもに接することで園としての信頼度もさらに向上すると考える。

エンゲージメント向上の視点より、共通スタンダードの整理は高く評価できる。より安全で楽しい美木幼稚園であり続けてほしいと願っている。

最後に一年間を通して子どもの成長を実感できた。子どもから園の様子を聞く限り、毎日が楽しいと目を輝かせている。現状でも十分に満足していることは伝えておきたい。

今後も良き伝統を残しながら卒園児が自身の子どもたちも通わせたいと思えるような魅力あふれる美木幼稚園であり続けてほしい。

以上、保護者の皆様からのアンケート、学校(施設)関係者の皆様からのご意見・ご提言をありがとうございました。

令和 8 年度以降の運営の参考にさせていただきます。